

職員による自己評価

A環境面

- ・床面の段差解消に努めている
- ・手すりの設置など利便性を図っている

B児童への支援内容

- ・分析とモニタリングを通じて根拠のあるケアの提供に努めている
- ・季節に合わせた行事の提供を行っている
- ・職員間でケア内容についての情報共有が円滑にできている

C関係機関との連携

- ・コロナ禍により、買い物や外出プログラム等地域での社会参加の機会が減少している
- ・学校や他事業所との連携機会は少ない

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・面談や送迎時の引継ぎを通して情報共有に努めている
- ・事業所の運営に関して都度丁寧な説明を心掛けている

E非常対応

- ・月に一度の避難訓練、及び年間で数度の研修を実施
- ・虐待防止/身体拘束適正化委員会の設置
- ・ヒヤリハットの共有を行い再発防止に努めている

保護者による評価

A環境面

コメント無し

B児童への支援内容

- ・活動プログラムの固定化はコロナ禍なので仕方がないと思う
- ・放課後児童クラブや児童館などへの交流を特に希望しない
- ・長期休みの対応もとても助かっています。
- ・参観等ないので、中での様子がわかる写真等見れる機会が増えると様子がわかって良いなと思います。
- ・コンブリオでの写真や動画などありましたら、たまに見せて頂きたいです。
- ・身だしなみや服装に関しての助言、助かりました。

C事業所からの情報発信

コメント無し

D非常対応

コメント無し

事業所内での分析

【共通点】

- ・コロナ禍による活動範囲の縮小については共通認識を持っており、保護者から一定の理解を得られていると思われる
- ・情報共有や助言等が効果的に機能できていると思われる

【相違点】

- ・事業所内で行っている直接的なケアの細やかな内容や、ケアに関連する取り組みや工夫など、保護者への発信が不十分なために共通の理解となっていない箇所が多々あると思われる
- ・写真や動画などの公開、参観の実施など、過ぎしの様子が直接わかる機会が求められている

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・バリアフリー化に努めている
- ・提供しているケアの内容を分析することで効果的なケアの提供に努めている
- ・職員同士の円滑なコミュニケーションと機会の確保により、迅速な情報共有が行えている
- ・保護者とのコミュニケーション機会が多く連携を取りやすい状況にある
- ・社内資源を活用した定期的な研修の実施など支援の質を上げる機会が設けられている

事業所の改善点

- ・コロナ禍により減少した社会参加の機会を徐々に回復していきたい
- ・過ごしの様子をより分かりやすく保護者に伝えられるよう方法を探りたい
- ・ミーティングや情報共有の頻度を上げる等職員間のコミュニケーションを増やすことで、連携を促進していきたい
- ・支援方法やツールの活用方法などベテラン職員から経験の浅い職員に引き継ぐことでケアの質向上に努めたい

事業所の改善への取り組み

- ・コロナ禍の感染対策を講じつつ、商業施設や遊戯施設、地域の公園などの外出機会を回復し、社会参加の機会を広げていく。
- ・送迎時の引継ぎや面談をより丁寧に実施し、過ごしの様子を詳しく伝えていく。
- ・一日一度の定期的なミーティングを行う時間を確保し、職員間のコミュニケーションをより円滑にしていく。
- ・職員への指導期間と目標をより明確化し、職員がスキルアップしやすい体制を整えていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

保護者様から直接評価とご意見を頂く事で、異なる視点から事業所のケア内容並びに運営方法について見直す良い機会となった。過ごしの様子の共有が不足していると感じるため、今後さらなる共有が図れるような方法を検討していきたい。また、事業所内評価を行うことで、事業所の強みの発見並びに職員間での意識や認識の共通点と違いに気づくことができた。これを職員同士のコミュニケーション促進のきっかけとし、ケアの質を高めるため役立てていきたい。

事業所名 児童デイサービスコンブリオ

担当者 大町 忠輔